

大津町議会 文教厚生常任委員会行政調査報告

氏名 岩下 啓史

視察研修名：大津町議会文教厚生常任委員会行政視察

研 修 先：①大阪府 泉大津市

②大阪府 泉南市

期 日：令和7年10月30日（木）～31日（金）

研修テーマ：①「市立図書館 シープラ」の取り組みについて

②「小規模特認校 市立東小学校」の取り組みについて

研修報告 意見・感想

1. はじめに

今回の大阪視察研修では、「泉大津市立図書館シープラ」「シーパスパーク」、そして「泉南市立東小学校特任校」を訪問しました。それぞれの場所には、単なる施設という枠を超えて、「人がどう生き、どう関わるか」という物語がありました。見たもの、聞いたこと、そして感じたことをまとめます。

2. 泉大津市立図書館「シープラ」

泉大津駅直結のビル3階が丸ごと図書館というスケールに、まず驚かされました。3,500㎡という広さは、大津町の図書館の約1.8倍。けれど、その印象は「広い」というより、「自由で、楽しそう」というものでした。

館内には、静かに読書ができるエリアのほか、会話を楽しむスペースや、子どもたちが遊びながら学べる場所まで揃っていて、まるで知のテーマパークのようでした。私は子どもの頃から図書館が大好きで、放課後や休日によく通っていました。教室や部活の喧騒から離れて、本の世界に没頭できる時間は、子どもながらに心の拠り所でした。今でもその感覚は変わらず、仕事の合間や休日によく立ち寄ることがあります。ただ、最近の図書館は機能が多様化する一方で、“静けさ”が失われつつあるように感じることもありました。音に敏感な私にとっては、耳栓をして過ごすこともあるほどです。

そんな私にとって、シープラの空間設計はとても印象的でした。

静けさを求める人も、お話しを楽しむ人も、同じ建物の中でそれぞれが心地よく過ごせるようにデザインされている。それぞれのニーズをエリアごとに整理しつつ、利用者同士が行き来できるようになっており、“共存”という言葉がぴったりでした。特に印象に残ったのは、「こどもの読書活動推進計画」におけるユニークな取り組みです。

その名も『あ、そこの本嫌いのキミ、手伝ってもらえませんか?』。

思わず笑ってしまうようなタイトルですが、この子供達が参加型の企画の背景には、子ども自身の声を大切にしたいという職員さんたちの強い思いがありました。子どもたちが自ら考えたアイデアを形にし、漫画という親しみやすい形で「疑問→

調べる→わかる→伝える」という“知のサイクル”を描いています。子どもたちが、自分の興味や夢に向かって自然と踏み出せるように導くその姿勢に、深く共感しました。

正直に言えば、私自身もこんな図書館が子どもの頃に身近にあったなら、もっと図書館という場所を遊び尽くしていただろうな、と思います

3. シーパスパーク

図書館から徒歩 15 分ほどに位置する「シーパスパーク」は、まさに“まちのリビング”という言葉がふさわしい場所でした。35,000 m²という広大な敷地の中には、カフェレストラン、人工の川、花畑、芝生広場、市民農園まであり、どこを見ても人の笑顔が似合う空間です。特に、子どもたちが泥んこになって遊べるエリアや、芝生の滑り台、ステージイベントのための広場など、「遊び」と「学び」がひと続きになっていました。

歩きながらふと感じたのは、空間のデザインが人の行動を変えるということです。人が集う場所には、必ず“理由”があります。それが「楽しさ」でも「安心」でもいい。泉大津市はその理由を、空間の中にうまく埋め込んでいました。「公共施設＝用事がある人だけが行く場所」という固定観念を壊し、“自然と人が集まる場”にしているのが印象的でした。

こうした発想は、大津町の公園整備やコミュニティスペースづくりにも大きなヒントになると感じました。

4. 泉南市立東小学校特任校

二日目に訪れたのは、泉南市の東小学校特任校です。

人口減少が進む山間部の学校を守るため、2007 年に特任校制度を導入し、市外からも児童を受け入れています。導入当初 49 名だった児童数は、今では 78 名。子どもたちが減っていく時代に、子どもたちを惹きつける学校をつくりあげたというのは、本当にすごいことです。

この制度を提案した堀口市議会議長は、東小学校の卒業生でもあり、「この学校をなくしたくない」という一心で取り組んできたと話されていました。その言葉には、地域を想う情熱がこもっていて、心を打たれました。また、提案された当時は議員ではなく、お子さんが通っており、父親として提案されたとお話しされていました。

私自身、天草の自然豊かな小学校で育ったので、その思いに強く共感します。竹の子掘り、川遊び、田植えなど、自然の中に学びがありました。しかし、今の都市部では、そうした体験がほとんどできません。だからこそ、東小学校の活動には大きな意味があります。

草木染め、しめ縄づくり、七夕集会、昔遊び。どれも地域の人と一緒にやる活動で、子どもたちは「学ぶ」と同時に「感じる」ことを覚えます。

さらに、異年齢での交流を通して、自己肯定感を育てる教育を大切にしている点にも深く感銘を受けました。私はこれまで、社会経験の中で「人が数値で評価される」ことに違和感を覚えてきました。人間の成長は数値のみでは測れません。うまくいく日も、失敗する日もある。けれど、そのすべてが「生きる力」になる。

この学校では、まさにその“プロセスの尊さ”を大切にしていると感じました。

大津町でも、こうした教育のあり方を参考にしながら、地域と学校が共に支え合い、子どもの「生きる力」を育てるまちづくりを進めていきたいと思います

5. おわりに

今回の視察を通して、私は改めて「町づくりの主役は人だ」と感じました。立派な建物をつくることよりも、その中でどんな時間を過ごし、どんな関係が生まれるか。そこにこそ、まちの本当の価値があります。

泉大津市も泉南市も、“人の想いを中心にした公共空間”をつくり上げていました。私も、大津町でその一端を担う者として、学びを形にしていきたいと思います。静かに本を読む時間も、誰かと笑い合う時間も、どちらも尊い。そんな温かいまちづくりを、これからも目指していきます。